讀ミ給ヘル也ケリ、○又見古今和歌集

〔大鏡五太政大臣兼家〕太政大臣兼家のおとゞ、これ九條殿○藤原師輔の三郎君、東三條のおとゞにおはします、御母一條攝政○伊尹におなじ、冷泉院圓融院の御をぢ、一條院三條院の御おほぢ、東三條女院○圓融后詮子贈皇后宮○冷泉后超子の御父、公卿にて廿年、攝政にて五年、太政大臣にて二年、よをしらせ給ひ、さかえて五年ぞおはします、○略中うちにまゐらせ給ふにはさらなり、牛車にて北陣までいらせ給へば、それよりうちはなにばかりの程ならねど、ひもときていらせ給ふとぞ、されどそれはさてもあり、すまひのをり、東宮のおはしませば、ふたところの御衣になにをもおしやりて、御あせとりばかりにてさぶらはせ給ひけるこそ、よにたぐひなくやむごとなき事なれ、すゑには北方もおはしまさゞりければ、をとこずみにて、東三條殿の西對を清涼殿づくりに御ゑつらひよりはじめて、すませ給ふなどぞあまりなる事に人申めりし、なほたゞ人にならせ給ひぬれば、御果報のおよばせ給はぬにや、さやうの御みもちにひさしくはたもたせ給はぬともさだめ申めりき、

〔古事談一王道后宮〕一條幼主御時、夏公事日、公卿等徘徊露臺、披南殿北戸帶涼風、其時大入道○藤原兼家爲攝政、放袵奉抱主上、自掖戸令指出給、諸卿皆敬候云々、又云、私ニ云、此儀アマリ也云々、

〔日本紀略九一條〕永延二年九月十六日庚子、攝政○藤原兼家新造二條京極第、有興宴事、左右大臣○源雅信藤原爲光、以下多以集會、池頭釣臺、盃酌數廻、春宮大進源頼光牽貢駒卅匹、大臣以下預之有差、會者誦詩句唱歌曲、河陽遊女等群集、給絹卅匹米六十石云云、今日之遊、希代之事也、

〔日本政記八一條〕頼襄曰、一條帝亦有志於治也、曰、吾得人才、一事不讓延喜○醍醐天曆、○村上然吾觀其所謂人才如四納言、世所盛稱、雖練達朝章、大抵容媚權門者耳、○略中朝廷之政爲權家所擅、使天子於邑鬱結、而袖手傍觀、無敢一言匡救之、可謂之朝廷有人矣乎、攝政兼家之落二條京極第也、大宴